

令和8年第2回
村山市議会定例会

令和8年度

施政方針

令和8年2月

村山市長 志布隆夫

令和8年第2回村山市議会定例会の開会にあたり、市政運営に対する基本的な考え方と主な施策を申し上げます。

はじめに、先日行われた衆議院総選挙におきまして、国民の意思が示されました。新たな体制下では、山積する課題に対し、経済対策や社会保障制度の改革など、新年度予算の一刻も早い成立が強く望まれます。それにより、強い地方経済の構築と市民生活への迅速な支援等の政策が着実に実行されることを切に願っております。また、これまで以上に国や県とのパイプを強固にし、緊密な連携を図りながら、市民の皆様の期待に応えるべく各施策を推進してまいりたいと存じます。

さて、日本経済は、緩やかな回復が見られるものの、消費の弱さや外需の縮小が指摘され、少子高齢化による社会保障費の増大や生産性向上への取組みといった構造的課題が依然として深刻です。また、円安による原材料価格の高騰と人手不足による人件費の上昇など物価上昇が重なり、特に日常生活に直結する食料品やエネルギー価格の上昇が顕著で、市民生活に大きな影響を及ぼしております。

このような中、本市は今年度から第6次村山市総合計画をスタートさせ、『次の世代に引き継ぎ・受け継がれる魅力あるまち』の実現に向け、各種施策に取り組んでおります。新年度は、計画開始から2年目にあたりますので、さらに魅力あふれるまちになるよう大胆な施策を展開してまいります。

特に主要施策である「子育てスマイルプロジェクトの推進」と魅力ある

まちの推進として「駅西エリアの開発」、「郷土愛あふれるこどもたちを育む教育の振興」に対して重点的に予算を配分し、安定した市民生活と安全・安心なまちの構築を進めてまいります。

それでは、新年度における重点施策について、第6次村山市総合計画に掲げる6つの基本目標に沿って主な取組みを説明いたします。

（１）誰もが暮らしたいまちづくり（定住促進/子育て支援分野）

これまで人口減少対策として、重点的に予算を配分し進めてきた「子育てスマイルプロジェクト」は、子育て世帯のニーズを把握し的確な支援となるよう見直しを図りながら取り組んでまいりました。その成果として、数年前から子育て世帯の転入者数が転出者数を上回るといった結果が出ております。今後も若者の定住者を増やし、子育てしやすい環境を整え、住み続けたいと思えるまちを構築してまいります。

まず、定住促進策として、新たに民間事業者による子育て世帯向けの賃貸住宅建設に対して支援をするほか、市外から転入し賃貸住宅に入居した方に対する支援について、子育て世帯分の拡充をしてまいります。

また、子育て支援策として、保育施設等の給食と小学校の給食を無償化し、ひとり親家庭等に対する子育て応援給付金を増額するなど、子育て世帯の経済的負担をさらに軽減してまいります。

このほかにも、在宅保育や病児保育の支援、小学校・中学校・高等学校等の入学時に合わせた応援金の支給など、これまで「子育てスマイルプロジェクト」として取り組んできた様々な事業を継続し、安心して子育てができる環境を整えてまいります。

(2) 安心して暮らせるまちづくり（まちづくり/防災減災分野）

本市の駅西エリアは、新「道の駅」の整備に向けた造成と商業団地などの整備に向けた工事が進み、開発の様子を目の当たりにする機会が増えてまいりました。新「道の駅」については、昨年に運営事業者や建築設計事業者が決定しましたので、『地域の連携とまちぐるみの取組みで地域を活性化する拠点』として、令和11年度の開業に向け着実に進めてまいります。また、商業団地の造成と並行して、企業誘致を進めていく必要がありますので、今年度を実施した企業誘致調査業務の結果を分析しながら、積極的に企業誘致に取り組んでまいります。このエリアが、市民にとって「便利で快適な暮らしができるまち」を実感できる場所になるよう、重点的に進めてまいります。

次に、市民が安全に安心して暮らせる環境を整えるためには、大規模な自然災害等への備えを充実させる必要があります。そのため、市民の防災意識の向上が図れるよう7年ぶりに防災マップを更新するほか、災害時に物資を運搬する消防の資機材搬送車両を更新いたします。また、市中央部の浸水対策は、対応策を調査しながら被害軽減に向けた具体的な取り組みを検討し、市として国や県に対して早急な河川整備を強く要望してまいります。

(3) 地域産業と観光が盛り上がるまちづくり（産業/観光振興分野）

本市の基幹産業である農業は、従事者の高齢化や担い手不足が依然として大きな課題となっており、これらの影響で遊休農地が拡大している状況です。加えて、近年の異常気象による農作物への影響や有害鳥獣による被害が拡大し、離農者が増えております。そのため、担い手確保に向けた新規就農者への支援を充実させるほか、農業分野における地域おこし協力隊の受入れを推進してまいります。また、持続可能な農業体制の構築と産地間競争の強化が重要となるため、重点作物である「さくらんぼ」の結実確保に対する支援や「すいか」の病害対策などに取り組みながら、関係機関と連携した戦略的な販売を促進してまいります。

商工業分野においては、今年度から起業・創業への支援を拡充したことにより、新たな創業者が誕生しました。こういった動きは、地域の新たな力になりますので、息の長い企業として成長していくよう継続して支援してまいります。また、Link MURAYAMA に指定管理者制度を導入したことにより、民間の新たな発想で中心市街地の活性化が図られることが期待されます。市としても、入居事業者が空き店舗などを活用した事業展開に繋がるような施策を検討してまいります。

観光面では、現在改修を進めているクアハウス基点のSPAプールが今年の7月にリニューアルする予定となっております。市民の健康増進や憩いの場として大いに利用されることが見込まれるほか、新たな観光スポットになることが期待されます。最上川三難所そば街道や最上川三難所舟くんだり

といった既存の観光資源、バラまつり、徳内まつりなどのイベントと組み合わせながら、インバウンドを含めた新たな観光誘客を促進してまいります。

また、名誉市民である村川透監督の最新作「最後の遊戯」が、昨年末に市内で撮影されました。撮影にあたり、多くの方々にご協力いただいたことに対して感謝を申し上げるとともに、本市の魅力が全国に発信される上映の機会を市民の皆さんと一緒に楽しみに待ちたいと存じます。

（４）健やかでやさしいまちづくり（健康/福祉分野）

人生100年時代において、医療費や介護給付費の増大が大きな課題となっております。市民一人ひとりの健康への取組みは、日頃からの意識付けや習慣化することが重要です。これまで実施してきた特定健診などの受診率向上に向けた取組みや健診結果からの生活習慣病の予防と早期発見、重症化予防に向けた取組みなど、関係機関と連携しながら進めてまいります。

また、高齢化率40%を超えている本市にとって、高齢者が健やかでいきいきとした暮らしができるような環境を構築しなければなりません。老人クラブ活動の充実や就業機会の確保など、高齢者が積極的に社会に参加できる施策を推進してまいります。

（５）未来を担う人を育むまちづくり（教育/文化/スポーツ分野）

次の世代を担う子どもたちが、夢と希望を持てるよう地域全体で子どもを育む仕組みづくりに力を注ぎながら、引き続き教育環境を整備してまいります。

ます。市西部地区において、令和10年開校に向け準備を進めている義務教育学校「葉山学園」は、新年度から改修工事に着手いたします。現在の葉山中学校校舎を改修するため、在校生に影響が出ないよう十分に配慮しながら整備を進めてまいります。また、昨今の猛暑から子どもたちの学校生活を守るため、楯岡小学校と各中学校の屋内運動場に空調設備を順次導入してまいります。さらには、小学校における1人1台端末の更新を行い、情報活用能力や創造力の育成など多様な学びをサポートしてまいります。

豊かな人間性を育む生涯学習とスポーツ分野において、今年度から開始したネーミングライツを活かし、新年度は官民連携事業として市民体育館「サン ロゼッタ ムラヤマ」を会場とした市民向けの事業を企画してまいります。今後も生涯学習施設を中心にパートナー企業を募集し、新たな財源と民間の発想を生かしながら市民に喜ばれる事業を展開してまいります。

(6) 地域とともに作る持続可能なまちづくり（協働/行財政改革分野）

市内の各地域では、まちづくり協議会を主体とした様々な事業が行われておりますが、人口減少が続く中において、こういった地域活動がコミュニティ形成の重要な基盤となっております。地域の特色を生かした事業や工夫を凝らした事業など、年代問わず多くの地域住民が参加されている様子を見てまいりました。今後も各地域での活動が活発に事業展開されるよう支援してまいります。

また、三十路式、厄払いなどの節目に開催されている同窓会などの会合は、

地元で級友などと顔を合わせる良い機会となっております。このような機会は、Uターンやふるさと回帰のきっかけにもなりますので、市内で開催される同窓会などに対して新たに支援してまいります。

行財政関係においては、持続可能な財政運営のため、ふるさと納税の強化やネーミングライツを活用した自主財源を確保しながら市民サービスの向上と地域経済の活性化を図ってまいります。

むすびに、これまで人口減少が続いてきた本市にとって、子育て世帯の転入者が増えるという明るい兆しが見えるようになってまいりました。一つひとつの取組みが、確かな成果へと繋がることが示された結果でもあります。新年度においても、これまでの取組みを土台とし、さらに魅力あるまちになるよう市政運営の舵取りを担ってまいります。

改めまして、市民及び議員の皆様、さらには本市の発展にご尽力いただくすべての関係者の皆様に、ご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。施政方針といたします。